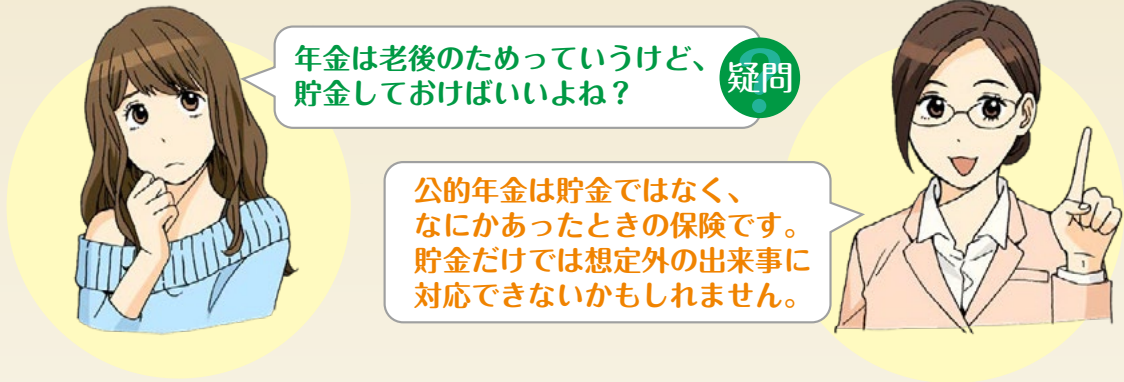
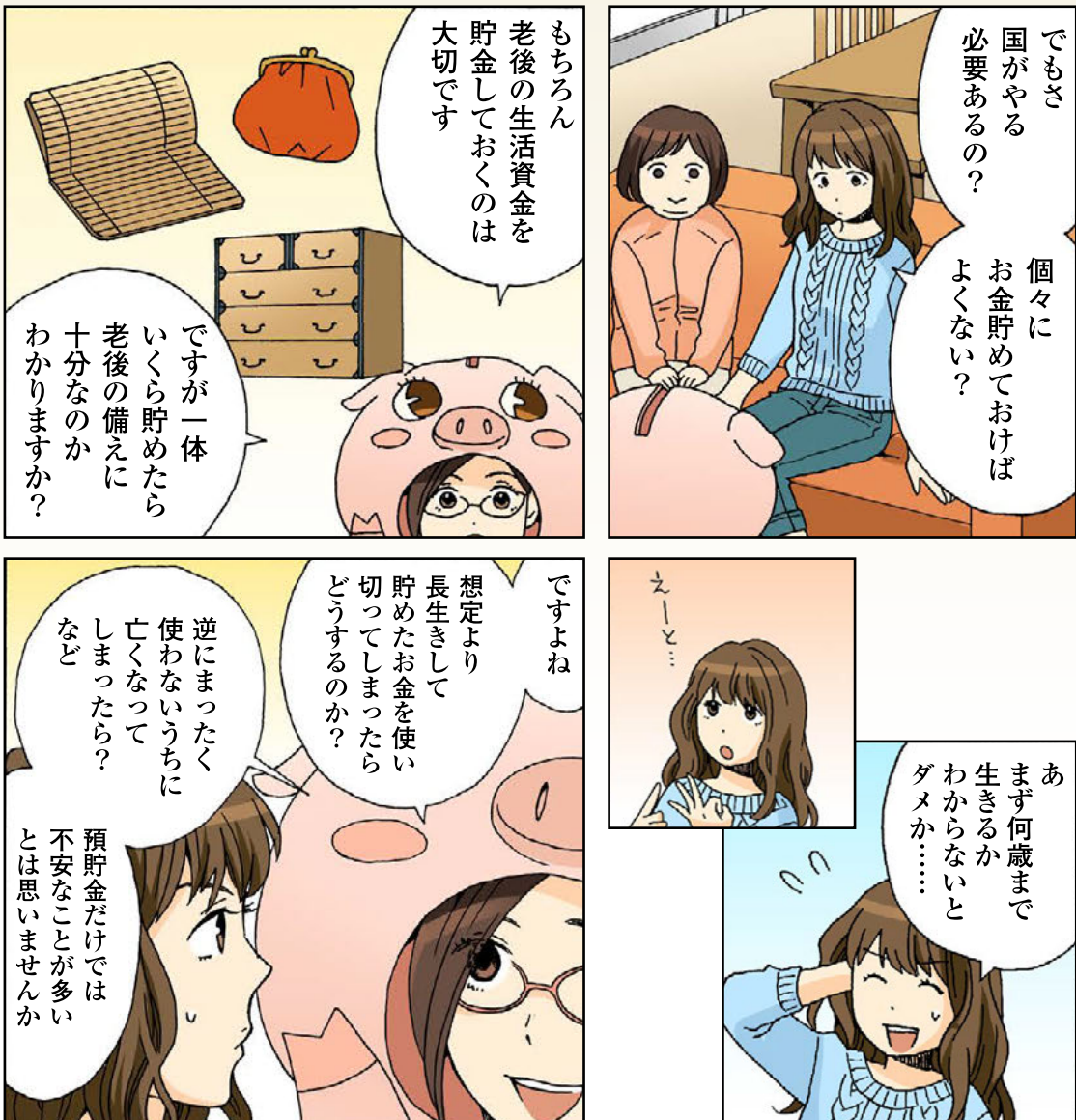


公的年金の意義



公的年金ってなんのためにあるのでしょうか。
老後の備え？ 実は、それだけではないのです。
なぜ公的年金が必要なのか、その目的と意義をご説明します。

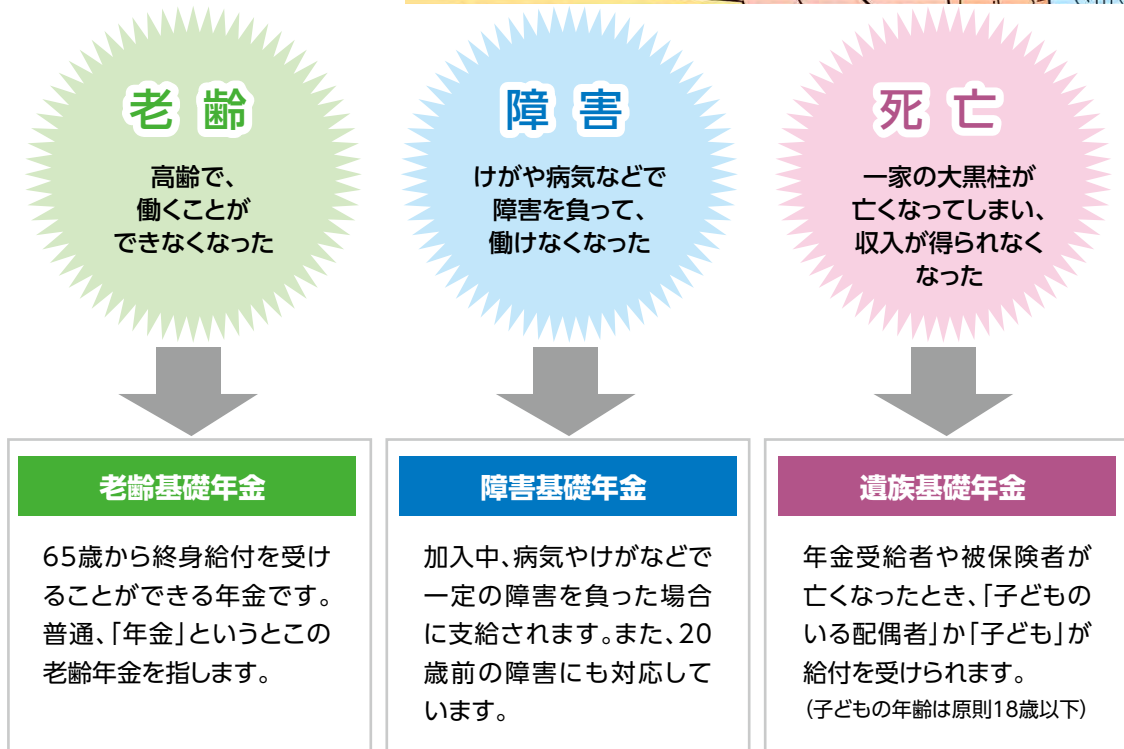


公的年金って、なんのためにあるの？

人生には、いろいろな「もしもの時」があります。病気やけが、死亡など……
 そうした「もしもの時」に備えるため、民間の生命保険や医療保険に加入したり、貯蓄をする方もたくさんいることでしょう。
 ですが、その「もしもの時」がいつ訪れるのか、どれだけの期間に及ぶのかは、誰にもわかりません。
 すべての人が、あらゆる事態を予測して準備することは困難なのです。
 すべての人がこうした事態に備えられるようにしたのが、公的年金です。

人生のリスク、想定外のリスクとは

高齢によって働けなくなること以外にも、なんらかの事情で働けなくなったり、それまでの収入がなくなってしまうことは、人生において大きなリスクです。
 公的年金では、以下のようなリスクに対応した保障を行っています。



なにが違うの？公的年金と貯金



公的年金は、一般的に老後の生活資金として考えられていますが、広い意味での保険制度にあたります。老後に備えて個人で貯蓄した場合と比べて、以下のような特徴があります。

1 生涯にわたって受給できる

誰も、自分が何歳まで生きるか、死ぬまでにいくら必要なのかわかりません。そのため、貯金をしていても、生きている間に使い切ってしまうかもしれません。それに対して公的年金は、亡くなるまで受給できる仕組みです。長生きして貯金がなくなったらどうしよう……という心配をせず、安心して暮らしていけるのです。

2 物価変動や賃金上昇など、経済の変化に比較的強い

物価や賃金が上がると、それまでしてきた貯金の価値がなくなってしまう（価値が目減りする）かもしれません。公的年金は、そのときの物価や現役世代の賃金などに応じて、どのくらい給付されるかが決まります。そのため、物価が上がるインフレなどに比較的強いといわれています。

価値が目減りとは

それまで
貯金していた金額では
役に立たなくなってしまう
可能性があります。

インフレ

たとえば短期間で
急な物価の
上昇（インフレ）が
起こった場合

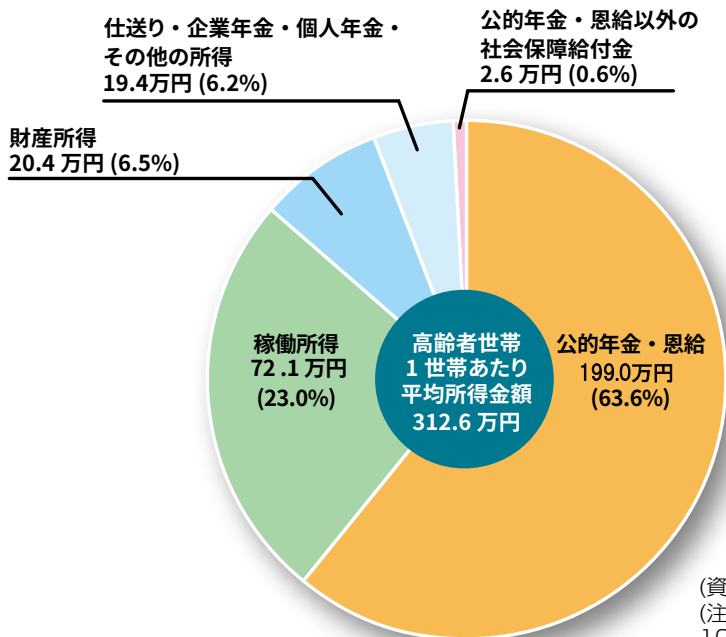
3 重度の障害を負った／一家の大黒柱が亡くなったときに対応できる

一家の大黒柱が、突然の事故や病気で障害を負ってしまったり、亡くなるなどしたとき、小さな子供や配偶者はどうしたらいいでしょう。貯めてきたお金だけでは生活できない場合も考えられます。

こうした事態に備えるため、公的年金は障害を負った方や遺族への保障も行っています。



公的年金は多くの方の生活を支えています



年金は
高齢者世帯の
収入の6割

(資料)2019年国民生活基礎調査(厚生労働省)
(注)四捨五入による端数処理の関係で、100%にはなりません。

公的年金が地域経済を支える役割

家計消費の2割が年金の地域もあります

(対県民所得比 上位7県)

都道府県名 (高齢化率)	対県民所得比	対家計最終消費支出比
島根県 (33.6%)	18.2%	23.5%
鳥取県 (31.0%)	17.5%	20.5%
秋田県 (35.6%)	16.3%	18.9%
愛媛県 (32.1%)	16.2%	19.3%
長崎県 (31.3%)	16.0%	18.1%
高知県 (34.2%)	15.8%	18.8%
奈良県 (30.3%)	15.8%	20.6%

高齢化率：総務省「人口推計」(平成29年)
都道府県別年金総額：厚生労働省年金局「厚生年金保険・国民年金 事業年報」(平成27年度)をもとに作成
(厚生年金保険、国民年金及び福祉年金の受給者の年金総額)
県民所得・家計最終消費支出：内閣府「県民経済計算」(平成26年度)

いっしょに検証! 公的年金

～ 財政検証結果から読み解く年金の将来～

詳しくは、マンガで分かりやすく解説した
こちらのホームページをご覧ください。

<http://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/>